「区における行政への参加の考え方」検討の方向性に関する説明会
区民会議委員経験者からの主な意見（高津区）

1　開催状況

（1）日　時　　令和2年12月23日（水）　15:30～16:45
（2）会　場　　高津区役所5階第1会議室
（3）参加者　　8名

2　実施概要

1．開会
井川区政推進課長から挨拶した。

2．「区における行政への参加の考え方」検討の方向性の説明
配布資料に沿って、説明した。

3．質疑応答
質問・発言を希望の方に、挙手及びご発言していただき、意見交換した。

4．閉会

3　意見交換の内容（要旨）

（1）　区民会議は様々な問題があった。各団体から代表者が出てくると課題がいっぱいになってしまい、そこから1つか2つを選ぶのは大変であった。そして、選ばれたテーマが、自分の課題にならないと、嫌気がさしてしまうことがあった。一方で、色々な角度で物事が言えるということがわかった。

新しいしくみの中では、課題ができてから、集まって話し合うとなっていると思うが、話し合いだけで終わってしまうのが心配で、区民会議のように条例で定められていない中で、堂々とものが言えるのか。

（市民文化局区政推進課）

これまでの区民会議は、テーマ出しに苦労した。2年間の任期のうち、1年の半分くらいを使って、テーマ出しに時間を使っていたこともあると思う。違う意見を聞いたりして、新しい発見というのが、創発だと思う。一方、固定された2年という任期の時に、果たして1年の半分の時間をそれに使って良いのかという疑問の意見もあった。課題の出し方やテーマ設定の仕方などは、いくつかあっても良いのではという意見もあった。

今までは任期が2年、20人以内というところで、決まっていて、やりにくかったところがあるが、良かったところを活かしながら、違ったアレンジをしてみる。

新しい参加の場についても、自治基本条例22条が基になっており、いただいた意見は、市長及び区長が真摯に受け止めて、反映に努めることとするというのは、決まっている。今回、附属機関でないとしても、いただいたご意見を、どう反映していくかは、我々に課せられた責務であるので、そこは変わらない。

（2） 区民会議をやって、色々な成果があったと思うが、新しいしくみの中で、委員選出の仕方はどうなるのか。同じ区民会議でも、各区によって運営の仕方や課題の出し方に違いがあったと思う。また、1期～6期の中でも変化があった。

テーマの抽出はどのように考えているのか。

予算措置は、どのような形で考えているのか。

新しいしくみの内容が市民に理解されていないので、広報が必要だと思う。

（市民文化局区政推進課）

メンバー選出は、やり方によって異なると思っている。例えば、子育てというテーマとした時に、活動されている団体の人に集まってもらうのか、それとも抱えている課題をもう少し幅広に捉えて解決策を探ろうとするのであれば、また違った方にご意見をいただくために、行政側から依頼をする場合もあると思う。後は、テーマを設定してから、公募するというやり方もあると思う。また、無作為抽出の方法も検討しているので、様々な手法を試してみる。

テーマ設定の方法について、今までは、委員を決めて、そのメンバーで何をテーマにするか決めてやっていた。今回は、まず、行政でテーマ設定をするやり方もあれば、区民アンケートから設定する場合もあると思う。それだと行政主導が強くなるということであれば、テーマそのものを募集する方法もある。大きくは、行政側から提示する場合と、区民からご提案いただく場合だと考えている。

予算について、実現に向けた取り組みを進めていくためには、いただいた意見を実現するための予算は、行政が事業としてやる場合は、予算要求していく。区役所だけではできない事業については、市民の皆さんとどういう展開や事業化ができるのか、実現の手法についても、一緒に考えていきたい。

内容が抽象的になっていてわからないというのは実感だと思うので、具体的にやってみて、試行しながら一緒に考えていきたい。

（3） 市のことでは、大きすぎるので、区民会議というのはあって然るべきだと思う。

委員になる人の確固たる規則がないので、そういうものをどうやって説明していくか。

宮前区の場合は、3つの地域に分かれているが、他の地域のことは、知らないので、オールラウンドの人をどうやって選んでいくのか。

川崎のイメージについても、こういうところから作っていく気がしている。

（市民文化局区政推進課）

こういった会議体を作ると、その方々の意見が、地域を代表するものなのかというような

意見はあるかと思う。それは難しい問題で、行政職員が地域を代表しているかというとそうでもない。一方では、この会議でやったことが、オールラウンドであるかというとそうではなく、地域に住んでいる方が、どう地域の課題について実感しているのかが、重要である。

市のイメージについては、アンケートで取っていて、比較的若い人は、かつての産業都市という印象はあまりないと変わってきているデータも出ている。こういったところで、明るい取組をやることで、イメージを良くしていけると良いと思う。

（4） 区民会議の課題としては、任期に区切りがあった。また、再任の扱いが、区によっても異なっていたと思う。

高齢者は、なかなかインターネットなどが使えず、情報が入ってこないので、その点も配慮いただきたい。

柔軟なしくみということでは、どのように発展させるかは難しい。車座みたいな集まりをいくつも作っても仕方ないので、時代背景に合ったテーマを考えることが課題だと思う。区民、行政と双方向で議論できるようなテーマを選んでいただきたい。

（市民文化局区政推進課）

区民会議は、条例で枠が決まっていたので、アレンジできるのが、委員の再任くらいだった。今後も7区によっての違いが、もっと広がってきたり、地域の検討したテーマによって、変わってきたり、創意工夫していきたい。そういう意味では、7区での交流・情報共有など、情報発信は重要だと思う。情報提供のやり方は、紙ベースもあるし、コロナ禍でオンラインが発展してきたこともあるので、そういったことにもチャレンジしていきたい。

（5） 区民会議は、地域や団体の代表が集まっていたと思うが、これからの川崎を考えると、それにこだわらなくて良いと思う。特に若い人の意見を吸い上げるためにも、オンラインの場を設定してやることが重要。組織としての柔軟性を持って、運営していったら良いと思う。

ソーシャルデザインセンター（以下、「SDC」という）との連携がよくわからない。

（市民文化局区政推進課）

最初から形を作ってそこに来ていただくやり方もあれば、まずは、インターネットでテーマの問いかけをして、ご意見をいただき、前垂れをつけてから、参加者を募集するやり方もあるかもしれないので、柔軟なやり方を考えていきたい。

（市民文化局協働・連携推進課）

SDCについては、概念の提示しかできていない部分がある。地域の活動を区単位で後押しする器（機関）であり、中間支援組織を立ち上げようとしている。現状では、多摩区が4月から試行で法人化して、活動相談や子ども食堂の支援などをして、色々なところに出向いて、関係性を温めているところである。幸区についても、新川崎のコミュニティカフェを使って、民間の業者が、まち歩きイベントなどをやっていく。地域活動の部分と行政参加の部分を連携させることが、お互いの相乗効果を発揮できるのではないかというところで、イメージを提示している。

（市民文化局区政推進課）

区によって、進み方が違うので、活動しているところがあれば、そこに情報が集まって、そこで出されている課題を参加の場のテーマにするという有機的な連携もあるかもしれないし、SDCの人に参加の場に来てもらうこともあるかもしれない。

（6） 寺子屋や地ケアなどの取組をしているが、SDCが横串をさすのか。

（市民文化局協働・連携推進課）

寺子屋や地ケアなどと、互助、支え合いという部分は、共通している。そういったものと連携するのが、大事である。SDCがすべての事業を統括するわけではない。

（7） 聞けば聞くほどわからない。7区でそれぞれ自由ということであるが、形が自由で、進行状況もバラバラであり、SDCは誰がやるのか。宮前区は形がないので、わからない。予算について、2年は行政が保障するが、その後は知らないという話だと、手を挙げる人がいるのか。

（8） ソーシャルデザインセンターを日本語で言うことはできないのか。

（市民文化局協働・連携推進課）

（7）（8）について、コメントする。SDCは、行政組織ではなく、あくまで市民側にあると想定している。行政と市民の中間にあるということで、あえて言うと中間支援の部分である。

財源について、2年で自主運営できるのであれば、やれているというところで、我々も、簡単な話ではないと思っている。考え方の中で、最終的には、理想として、市民主体が望ましいと考えている。

ネーミングが横文字なのは、今でも様々なところで言われる。あえてこれからの未知の意気込みにかけるという意味でも、横文字を使わせてもらっている。ただし、実際の運営の中で、皆さんと一緒に愛称を考えるというような形で取組を進めている。

（9） どうして行政の予算でやったら、ダメなのか。

（市民文化局協働・連携推進課）

市民活動支援指針の中で、市民活動というのは、本来的には、市民が市民を支えるものが理想というような整理の仕方をしている。行政のお金が入ることで、市民活動らしさとバッティングする部分がある。

（10） 行政のお金ではなくて、税金なので、市民のお金のはずだと思う。市民のお金を市民が使うので、問題ないと思う。

（市民文化局区政推進課）

「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」は、とにかくやってみようということで、これが未来永劫正しいかというと、そうではなくて、行政からの紐づきがないところで、自由にやってほしいというのが、理想理念としてある。実際には、自主財源を自分たちで稼ぎ出すという困難性は、高いと思うので、そこはこれから見直しもあると思う。そういうことも含めて、

これから色々な試行錯誤のチャレンジなのだと思う。

（11） 区民会議の時には、市議会議員が参与になっていたと思うが、議員の位置付けはどうなるのか。

（12） これまでの区民会議は、議員の参加が参与という形であったが、それについての総括が書かれていない。

（市民文化局区政推進課）

（11）（12）にコメントする。参与の実際の出席率が高くなかったが、一方で、2元代表性ということで、市長をトップとした補助機関として、取り組む職員と、選挙されて選ばれた議員がいる。区における行政を進めていく上でも、議員の存在は大きいものがある。

区民会議を作った時に、準区議会ではないが、どうやっていくかという時に、議員の関わりはどうなのかということで、喧々諤々あった。市長の附属機関なので、議員は切り離されているが、落としどころとして、参与とした。

今後は参与という形ではないが、情報提供させていただき、開催する場合は、通知等も出していく。

（13） 地域教育会議で活動している。小中学校区で、地域活動をやっている方たちを上手く参加させる役割をSDCがやっていければ、良いと思った。

こども会議、中学生会議を地域教育会議で運営しているが、子どもたちは、まちづくりに興味を持って、取り組んでいるので、そういうところから育った人たちの参加が上手くできれば良いと思う。無作為抽出は、興味を持っていないと難しいと思う。

（市民文化局区政推進課）

こども会議から育った方々との場を設定するのは、よいきっかけだと思うので、大きな価値があると感じた。

無作為抽出については、今の総合計画を作る時に、1度やっているが、回収率は高くないが、それなりに返ってきて、今まで来ていなかったような方も来たこともある。

（14） 地域の課題解決は重要だと思う。それに対して、行政は何をやってもらうんだというような話が主になってしまう。もう少し将来の高津区を良くするために、どうしたら良いかという議題が出てくると良い。そのためには、若い人の参加が大事だと思う。そういうテーマを区民に発信していくと、必然的に若い人や能力のある方の参加が増えてくると思う。

NPO法人を運営しているが、自力でやらないで、市の助成金や補助金をもらうと、自分の思いや目的が変わってしまう。理想は、自分たちが財源を確保して、自分でやっていくのが良い。税金の使い道は、限られてくるので、ランディングしていくためには、最初は必要になるが、その中で財源を確保しながら、やっていくのは理想であると思う。

（市民文化局区政推進課）

若い人に来ていただけないのが現実で、そこをどうしていくかは創意工夫していきたい。

NPO法人を運営されている面からの実体験も、我々が言うより説得力のある意見だったと思う。